

緑の担い手

緑の雇用

(フォレストリーダー)

研修を受講して

有限会社佐川運送

堀籠 有樹

私は、7年前に林業の仕事に就きました。今回、緑の雇用の現場管理責任者（フォレストリーダー）研修に参加させていただき、新たな分野の勉強を通して、林業の奥深さを改めて感じました。また、7年前と今の自分を比べて、いつの間にか成長していたことにも気づきました。

例えば、つるが絡んだ立木を伐採する時の対処法ですが、入社当時の自分は、周りを見ずつるの存在すら知らずに、伐採することだけに集中していました。今では、先に上部や周囲を確認し、つるを処理した上で、待避場所を決め、余裕を持って作業をするようになりました。

一つ間違えると事故に繋がるため、今回の研修の中で再度復習することができ、改めて安全確認の大切さを感じました。機械の操作でも、以前は自分の前方しか確認せず、近くに人がいても気がつかず、何度も危険な目に遭いそうになりました。



また、キャビンの中をゴミだらけにしたり、機械をぶつけたりしていました。今回の研修では、安全が第一であること、機械を動かすだけでもコストがかかり大変なことであることを知りました。今では、周囲の安全確認を励行するとともに、キャビンの中も、休憩時間に清掃するなど、綺麗にして乗るよう心がけています。

さらに、研修中は、他県の事業者の方とも交流することができました。お互いの仕事に対しての向き合い方や感じ方などについて情報交換をすることができ、今後参考にしてみたい事もありました。また、自分の職場の良さを改めて感じることもできました。今回の研修で学んだことを現場で生かすとともに、後輩の育成にも生かしていきたいと思えます。

北から 南から 原木しいたけの海外輸出に 向けた取組について

筑西林業指導所

当指導所管内の生産者が、原木しいたけの販路拡大を目指して、海外輸出に向けた取組を行っているで紹介いたします。

生産者の方は、初めに、輸出先候補の国をいくつか選び出し、それぞれの国でしいたけに対してどのような需要があるのか情報収集を行いました。そして、生産者自身が、実際にそれぞれの国へ足を運び、市場や飲食店等を視察して、その国の需要の特徴を把握し、自身の原木しいたけが売れるかどうかの検討をしました。国によつては、食文化が異なることから、日本で主に好まれる食感とは違った食感が求められる場合もあったそうです。

次に、各国の現地で得た情報も加え、輸出先候補の国を絞り込み、その国の規程で定められている輸出の要件を確認しました。その中には、生産物を出荷管理するための施設が規程の基準を満たしているか確認する調査を担当行政機関等が実施することとなっております。当指導所の職員が、生産者の所有する施設の調査を行いました。この調査では、輸出先の国で定められているチェックリストに基づき、収穫した原木しいたけの保管場所や梱包等の作業を行う場



チェックリストに基づく施設調査の様子

所が清潔に保たれているか等の衛生面や、農薬等の化学物質の残留がないか等の安全面など、様々な項目について確認しました。その結果、この生産者は、原木しいたけの生産管理がしっかりしており、施設も清潔に保たれていることなどが確認できました。

現在は、輸出国の業者が求める規格や品質を確認した上で、十分な利益を得ることができるよう、商談に取り組んでいるところです。

今後も、海外輸出などをはじめとした生産者の販売促進等の取組を支援し、本県の特産林産物の振興に努めてまいります。